

教科(科目)	国語（論理国語）	単位数	2単位	学年(コース)	2学年 必修
使用教科書	東京書籍『新編論理国語』				
副教材等	東京書籍『新編論理国語学習課題ノート』 尚文出版『常用漢字ダブルクリア四訂版』 浜島書店『短期集中セミナー高校国語の仕上げ一般常識』 桐原書店『楽しく書ける作文・小論文基本編』他				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～上越地域唯一の商業を専門とした高等学校として、生徒の多様な進路に対応した教育活動を行います～ ①1年生では基礎学力の充実に努めるとともに、積極的に将来の自分について探求する姿勢を育成します。 ②2年生では商業科目を系統的に学習することを通して、高い専門性を追求します。 ③3年生では学校の教育活動全体を通して、実社会で必要とされるビジネスマナーの習得を目指します。 ④各学年における探究的な学習活動や体験学習、教科横断的な学習により、深い学びを実践していきます。
カリキュラム・ポリシー	～このような生徒を求めています～ ①将来は自分でお店を持つなど、起業に関心がある生徒。 ②事務や販売などの仕事につくことを目指しており、そのための知識を学びたい生徒。 ③生まれ育った地域のために自分に何が出来るか考えている生徒。 ④新しいことに挑戦してみたいという積極性があり、進路希望実現のために努力を惜しまない生徒。 ⑤健康的で規則的な生活習慣をもち、ルールやマナーを守れる生徒。

2 学習目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにする。 (2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようになる。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

3 指導の重点

① 文学的な文章に親しみ、深く共感したり、豊かに想像したりする力を伸ばします。 ② 他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりします。 ③ 言葉がもつ価値への認識を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養います。
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
実社会に必要な国語の知識や技能を身につけている。	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広めたり、深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深めて言葉を効果的に使おうとしている。

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・提出された課題などの確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・提出された課題などの確認、分析 ・振り返りシートの分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業への取組状況の観察 ・振り返りシートの分析 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価基準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
<u>4</u>	広がる風景	3 読むこと	対話とは何か	・言葉には、言葉そのものを意識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解する。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握する。	3	小テスト等 ワークシートの確認、分析 成果物の内容
		3 読むこと	世界をつくり替えるために	・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増やし、文章の中で使うことを通して、語感を磨き、語彙を豊かにする。	3	成果物の内容 ワークシートの確認 中間考査
<u>5</u>	考える手がかり	5 読むこと	少女たちの「ひろしま」	・「読むこと」において、文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から考える。	5	成果物の内容 ワークシートの確認
		4 読むこと	「ふしぎ」ということ	・「読むこと」において、人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結びつけて、新たな観点から自分の考えを深める。	4	小テスト等 ワークシートの確認、分析
<u>6</u> <u>7</u>		11 書くこと	資料を整理し、テーマを吟味しよう	・主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深める。 ・「書くこと」において情報の妥当性や信頼性を吟味しながら、自分の立場や論点を明確にして、主張を支える適切な根拠をそろえる。	11	成果物の内容 ワークシートの確認
<u>8</u>	人間と知性	4 読むこと	学ぶことと人間の知恵	・文や文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解を深める。	4	小テスト等 ワークシートの確認、分析
<u>9</u>		4 読むこと	ラップトップ抱えた「石器人」	・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握している。	4	成果物の内容 ワークシートの確認
<u>10</u>	現実の中で	4 読むこと	思考の肺活量	・粘り強く比喻によって表現された筆者の主張を読み取り、学習課題に沿って筆者の述べる「思考」のあるべき姿について理解を深めようとしている。	4	成果物の内容 ワークシートの確認
		3 読むこと	安心について	・積極的に文章の展開を把握して筆者の考えを読み取り、学習課題に沿って筆者が捉えている「安心」の本質について考えを深め、まとめようとしている。	3	成果物の内容 ワークシートの確認
<u>11</u> <u>12</u>		14 書くこと	仮説を立てて検証しよう	・「書くこと」において、個々の文の表現の仕方や段落の構造を吟味するなど、文章全体の論理の明晰さを確かめ、自分の主張が的確に伝わる文章になるよう工夫している	14	成果物の内容 ワークシートの確認

1	ものの見方	4 読むこと	弱肉強食は自然の摂理か	・積極的に筆者の提示する問題や根拠を学習の見通しをもって捉え、文章の論理展開や提示された資料をもとに筆者の主張を的確に理解し、その内容について話し合おうとしている。	4	成果物の内容 ワークシートの確認
2		4 読むこと	複数の「わたし」	・粘り強く筆者の挙げる考え方や事例が示すことを読み取り、学習課題に沿って筆者のいう「わたし」の捉え方について理解し、「わたし」に対する見方を広げようとしている。	4	成果物の内容 ワークシートの確認
	働くよろこび	3 読むこと	はじめに「言葉」がある	・筆者が述べる「ファッション」と言葉の関係を捉え、今までの学習を生かして「働くこと」と「言葉」の関わりについて自分の考えをまとめようとしている	3	成果物の内容 ワークシートの確認
3		4 読むこと	楽に働くこと、楽しく働くこと	・「楽しく働くこと」について、それぞれの文章の筆者り立場に基づく考えを、学習課題に沿って理解し、「働くよろこび」について自分の考えをまとめようとしている。	4	成果物の内容 ワークシートの確認

計 70 時間 (50 分授業)

※ 領域ごとの授業時数合計

「書くこと」	25時間	「読むこと」	45時間
--------	------	--------	------

7 課題・提出物等

・積極的に筆者の提示する問題や根拠を学習の見通しをもって捉え、文章の論理展開や提示された資料をもとに筆者の主張を的確に理解し、その内容について話し合おうとしている。

8 担当者からの一言

科目「論理国語」では、実社会に必要な国語の知識や技能を身につけます。論理的な文章を読むことを通じ論理的、批判的に考える力を伸ばします。それは実社会や実生活で生きていくために必要な力です。この力は高校3年間だけではなく、生涯を支える力となります。意欲的な取り組みを期待します。

教科(科目)	国語（文学国語）	単位数	2単位	学年(コース)	2学年 必修
使用教科書	大修館書店『新編 文学国語』				
副教材等	大修館書店『新編文学国語学習ノート』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～上越地域唯一の商業を専門とした高等学校として、生徒の多様な進路に対応した教育活動を行います～ ①1年生では基礎学力の充実に努めるとともに、積極的に将来の自分について探求する姿勢を育成します。 ②2年生では商業科目を系統的に学習することを通して、高い専門性を追求します。 ③3年生では学校の教育活動全体を通して、実社会で必要とされるビジネスマナーの習得を目指します。 ④各学年における探究的な学習活動や体験学習、教科横断的な学習により、深い学びを実践していきます。
カリキュラム・ポリシー	～このような生徒を求めています～ ①将来は自分でお店を持つなど、起業に関心がある生徒。 ②事務や販売などの仕事につくことを目指しており、そのための知識を学びたい生徒。 ③生まれ育った地域のために自分に何が出来るか考えている生徒。 ④新しいことに挑戦してみたいという積極性があり、進路希望実現のために努力を惜しまない生徒。 ⑤健康的で規則的な生活習慣をもち、ルールやマナーを守る生徒。

2 学習目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。
- (2) 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う

3 指導の重点

- ① 文学的な文章に親しみ、深く共感したり、豊かに想像したりする力を伸ばします。
- ② 他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりします。
- ③ 言葉がもつ価値への認識を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養います。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・提出された課題などの確認 などから、評価します	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・提出された課題などの確認、分析 ・振り返りシートの分析 などから、評価します	以上の観点を踏まえ、 ・授業への取組状況の観察 ・振り返りシートの分析 などから、評価します
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価基準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	明日をひらく	4 読むこと	少なくとも最後まで歩かなかった	・筆者が大切だと考えていることを読み取り、理解する。 ・筆者の考えと比較しながら、自分の生き方について考えを深める。	4	小テスト等 ワークシートの確認、分析
	言葉でスケッチ①	3 書くこと	一言で心をつかもう	・写真やイラストに合ったおもしろい言葉を考える。 ・読み手の共感がえられるような言葉や表現を工夫して書く。	3	成果物の内容 ワークシートの確認
5	言葉でスケッチ②	4 書くこと	魅力を言葉で表そう	・ものの魅力を伝える言葉を探し、語彙を豊かにする。 ・読み手の共感が得られるような言葉や表現を工夫して書く。	4	成果物の内容 ワークシートの確認
	小説を楽しむ(一)	5 読むこと	ナイン	・場面の設定のしかたをとおして登場人物の心情を考える。 ・情景描写の効果を考えながら読む。	5	小テスト等 ワークシートの確認、分析
6		4 読むこと	晴れた空の下で	・本文の描写や言葉遣いから「わし」の性格や心情をとらえる。 ・語句のはたらきに注目して読む。	4	成果物の内容 ワークシートの確認
	古典の世界1	2 読むこと	児の飴食ひたること	・話のおもしろさと教訓をとらえる	2	小テスト等 ワークシートの確認、分析
7	詩を味わう	3 読むこと	永訣の朝	・詩に表された作者の心情を読み味わう。 ・詩のさまざまな表現と、その効果についてかんがえる。	3	成果物の内容 ワークシートの確認
8 9	名作を読む	5 読むこと	山月記	・登場人物の生き方から、自分自身の生き方に関する考えを深める。 ・漢文訓読調の文章の魅力を味わう。	5	成果物の内容 ワークシートの確認
	古典の世界2	4 読むこと	かぐや姫の昇天	・かぐや姫の心情とその変化を読み取る。	4	成果物の内容 ワークシートの確認

10	社会に生きる	4	読むこと	神去なあな あ日常	・登場人物の描写から人物像をとらえ、場面ごとの心情を読み取る。 ・仕事や自然に対する病死やを読み取り、物の見方、感じ方を豊かにする。	4	成果物の内容 ワークシートの確認 中間考査
		4	読むこと	その日東京 駅五時二十 五分発	・心情や情景描写に注意して読む。 ・「ぼく」が戦争についてどのように感じ、考えているかを読み取る。	4	成果物の内容 ワークシートの確認
		3	読むこと	身内ほど厄 介なものはない	・さまざまな文章を読み、構成や表現の工夫を読み取る。	3	成果物の内容 ワークシートの確認
		3	読むこと	柿	・さまざまな文章を読み、構成や表現の工夫を読み取る。	3	成果物の内容 ワークシートの確認 期末考査
11	表現を味わう	3	読むこと	ぼくのお母 さん	・さまざまな文章を読み、構成や表現の工夫を読み取る。	3	成果物の内容 ワークシートの確認
		4	書くこと	思いを言葉 に① エッセイを 書こう	・不特定の読み手を想定し、自分の思いを表現したエッセイを書く。 ・既存の作品も参考にしながら、構成や表現を工夫して書く。	4	成果物の内容 ワークシートの確認 学年末考査
12	表現を味わう	4	書くこと	思いを言葉 に②	・不特定の読み手を想定し、手紙の形式で言葉を贈る。 ・読み手と自分の関係に注意して、相手に応じた内容や表現を工夫して書く。	4	成果物の内容 ワークシートの確認
		4	書くこと	思いを言葉 に②	・作品に表れている作者の考え方をとらえる。 ・読書に興味をもち、積極的に読書に取り組む。 ・作品の構造や語り手の視点を意識しながら、作品を味わう。	4	成果物の内容 ワークシートの確認
1	古典の世界3 読書の広場	4	読むこと	行く河の流れ	・作品に表れている作者の考え方をとらえる。 ・読書に興味をもち、積極的に読書に取り組む。 ・作品の構造や語り手の視点を意識しながら、作品を味わう。	4	成果物の内容 ワークシートの確認
		2	読むこと	さくら日和	・作品に表れている作者の考え方をとらえる。 ・読書に興味をもち、積極的に読書に取り組む。 ・作品の構造や語り手の視点を意識しながら、作品を味わう。	2	成果物の内容 ワークシートの確認
2	古典の世界3 読書の広場	2	読むこと	鉄道員	・作品に表れている作者の考え方をとらえる。 ・読書に興味をもち、積極的に読書に取り組む。 ・作品の構造や語り手の視点を意識しながら、作品を味わう。	2	成果物の内容 ワークシートの確認
		2	読むこと	鉄道員	・作品に表れている作者の考え方をとらえる。 ・読書に興味をもち、積極的に読書に取り組む。 ・作品の構造や語り手の視点を意識しながら、作品を味わう。	2	成果物の内容 ワークシートの確認
3	恋のうた	3	読むこと	現代の恋 近代の恋 古典の恋	・それぞれの作品に描かれている情景や心情を読み取る。 ・詩歌の形式や表現の特徴について理解を深める。	3	成果物の内容 ワークシートの確認
		3	読むこと	現代の恋 近代の恋 古典の恋	・それぞれの作品に描かれている情景や心情を読み取る。 ・詩歌の形式や表現の特徴について理解を深める。	3	成果物の内容 ワークシートの確認

計 70 時間 (50 分授業)

※ 領域ごとの授業時数合計

「書くこと」	15 時間	「読むこと」	55 時間
--------	-------	--------	-------

7 課題・提出物等

・積極的に筆者の提示する問題や根拠を学習の見通しをもって捉え、文章の論理展開や提示された資料をもとに筆者の主張を的確に理解し、その内容について話し合おうとしている。

8 担当者からの一言

科目「文学国語」では、文学作品を読むことを通じて深く共感したり、豊かに想像したりする力を伸ばします。さらに、さまざまな視点からの文章を読むことによって多面的な見方を学びます。それは実社会や実生活で生きていくために必要な力です。この力は高校3年間だけではなく、生涯を支える力となります。意欲的な取り組みを期待します。

教科(科目)	地理歴史科(歴史総合)	単位数	2単位	学年(コース)	2学年 必修
使用教科書	第一学習社『高等学校 新歴史総合 過去との対話、つなぐ未来』				
副教材等	浜島書店『新詳歴史総合』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を持つ生徒を育成します～ ①社会の発展に貢献しようとする大きな志を持って、主体的に地域の生活を創造できる能力を持つ生徒を育成します。 ②ビジネスシーンにおいて様々な他者と関わり、チームワークを重んじながら課題を発見し、解決への道筋を立てる力を備えた生徒を育成します。 ③自己を管理する力を持ち、市民としての社会的責任を自覚する勤勉な態度の生徒を育成します。 ④世界には多様な価値観があることを理解し、自分の考えを適切な言葉で表現し、コミュニケーションを図ることが出来る生徒を育成します。
カリキュラム・ポリシー	～上越地域唯一の商業を専門とした高等学校として、生徒の多様な進路に対応した教育活動を行います～ ①1年生では基礎学力の充実に努めるとともに、積極的に将来の自分について探求する姿勢を育成します。 ②2年生では商業科目を系統的に学習することを通して、高い専門性を追求します。 ③3年生では学校の教育活動全体を通して、実社会で必要とされるビジネスマナーの習得を目指します。 ④各学年における探究的な学習活動や体験学習、教科横断的な学習により、深い学びを実践していきます。

2 学習目標

まずは近現代の世界史および日本史の基礎的な事項を理解し、それを踏まえた上で広い視野に立ち世界の中の日本や世界史と日本史を比較・関連して考察できる力を養う。さらに歴史的思考力を育成し一つの地球に生きる人類であるとの認識を高め、国際社会に生きる平和で民主的な国家社会の有意な形成者としての資質・能力を養うことを目標とする。 (1) 世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解する (2) 歴史に関わる事象の意味や特色、事象相互の関連性について多面的・多角的に考察する力 (3) 国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有意な形成者に必要な公民としての資質・能力

3 指導の重点

歴史的事象の知識だけでなく、知ったことを通してより良い日本国民、地球人としての自覚を持ち、社会の一員として生きていくことができるようになる事に重点を置きます。
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 世界の歴史と其中的の日本という立ち位置や関連性を理解している。 - 資料から歴史に関する様々な情報を的確に吸い上げ、知識としてまとめることができる。	- 歴史的事象を多角的多面的に考察しそれを自分のものとして消化吸収して表現している。 - 歴史の変化に気づき、その意義や特色を的確に捉えて考察し、表現できる。 - 多くの資料から読み取った情報から、その時代、地域の人々の心情を考察している。	- 連綿と続いてきた人類の営みが現在に続いているという理解の元、歴史的事象と現代世界をいろいろな視点から考察していく姿勢、態度が形成されている。 - 日本国民としての自覚と他国の人々や文化を尊重することの大切さを身につけている。

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、 - 年間5回の定期テスト - 課題レポート - ノート提出内容 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 - 年5回の定期テスト（記述論述） - 授業中の意見交換や討論の様子 - 課題レポート などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 - 年5回の定期テスト（記述論述） - 課題レポート - 授業中の様子や取り組み状況 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価基準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	第1部 歴史の扉	1	歴史と私たち 歴史の特質 と資料	・中学までの歴史的知識の再確認と歴史の見方に関するオリエンテーション	1	授業への取り組み
	第2部 近現代の世界と 日本		近代化への 問い	・18世紀を「近代化」という語句から考察する ・東アジアでの国際秩序形成の流れを検証する ・国際商業の展開とヨーロッパ、アジアのつながりと展開を考え方や生活を軸に検証する	1	
	第1章 近代化と私たち		18世紀のア ジアの繁栄 工業化の進 展と国民国 家の建設	・自由と平等の観点から、政治の転換とナショナリズムの広がりを検証していく	4	課題レポート
5					4	
				・19世紀におけるイギリスの動きと世界に及ぼした影響について検証考察する ・拡大政策のヨーロッパ諸国とイスラーム世界の動向について確認する	4	定期考査、ノート 配布プリント 課題レポート
6			結びつく世 界と日本の 開国	・欧米諸国の東アジア進出と日本への波及について確認し、変化を感じ取る	4	
7			帝国主義と アジア諸国 の変容	・欧米諸国はなぜ帝国主義政策をおこなうに至ったかを検証考察し、その波を受けた東アジア地域(日本を含む)について各国の違いや動向を探る	5	定期考査、ノート 授業への取り組み
8	第2章 国際秩序の変化 や大衆化と私たち	2 6	第一次世界 大戦と大衆 社会	・第一次世界大戦とロシア革命は世界にどのような変化影響をもたらしたか、またその後の世界秩序はどのように構築されたかを検証する ・アメリカの繁栄と日本における大衆の動向について学び、考察する ・世界恐慌の影響と各国の対応、ファシズムの台頭までを検証する	1 0	夏休み課題 配布プリント
9				・日本と中国の対立、そして第二次世界大戦へと進む道筋そして終戦までをを検証する ・戦後の国際秩序と日本の立ち位置(占領下の日本)について検証する	3	定期考査、ノート
10			経済危機と 第二次世界 大戦	・冷戦と東アジアについての検証	3	配布プリント
11			第二次世界 大戦後の世 界と日本		2	課題レポート
12	第3章 グローバル化と 私たち	2 9	冷戦と脱植 民地化・第三 世界の台頭	・AA諸国はどのようにして独立を成し遂げたのかを一連の学習から考察する ・核戦争の危機に瀕する世界	2 1	定期考査、ノート 授業への取り組み
1			世界秩 序の変容と 日本	・日本の高度成長とそれによりもたらされたものを検証しさらに考察する ・ベトナム戦争と文化大革命に揺れ動いた世界について検証する	2 2	
2				・ドルショックと石油危機が世界に与えた影響とその後の立ち直りについて検証する ・冷戦終結とソ連崩壊後の世界	2	
3				・テロに揺れる世界 ・グローバル化の進展と格差の拡大 ・学習のまとめとして、1990年代以後の我々の生活とこれからの平和な世界構築に向けての考察	2 1 2	定期考査、ノート 授業への取り組み まとめ報告書
		1 4				

計 70 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

単元ごとの課題レポート、授業ノート提出、話し合い時のまとめ報告書、配布プリント 等

8 担当者からの一言

- ・歴史は暗記科目ではなく、過去と未来をつなぐ架け橋のようなものです。時代によって、人々の暮らしや価値観、社会や文化の有り様は変化しています。これからの未来を考える上で、歴史を学ぶことは必要不可欠なものです。
- ・受け身の姿勢で学習に取り組まないこと。主体的・意欲的に授業に参加することで、歴史が身近で楽しい学びの場になるはずです。
- ・各種の課題提出を怠らないこと。

教科(科目)	数学(数学A)	単位数	2単位	学年(コース)	2学年 必修
使用教科書	実教出版『新編 数学A』				
副教材等	実教出版『スパイラル 数学I+A』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～上越地域唯一の商業を専門とした高等学校として、生徒の多様な進路に対応した教育活動を行います～ ①1年生では基礎学力の充実に努めるとともに、積極的に将来の自分について探求する姿勢を育成します。 ②2年生では商業科目を系統的に学習することを通して、高い専門性を追求します。 ③3年生では学校の教育活動全体を通して、実社会で必要とされるビジネスマナーの習得を目指します。 ④各学年における探究的な学習活動や体験学習、教科横断的な学習により、深い学びを実践していきます。
カリキュラム・ポリシー	～このような生徒を求めています～ ①将来は自分でお店を持つなど、起業に関心がある生徒。 ②事務や販売などの仕事につくことを目指しており、そのための知識を学びたい生徒。 ③生まれ育った地域のために自分に何が出来るか考えている生徒。 ④新しいことに挑戦してみたいという積極性があり、進路希望実現のために努力を惜しまない生徒。 ⑤健康的で規則的な生活習慣をもち、ルールやマナーを守る生徒。

2 学習目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成する事を目指す。

- (1)図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技術を身につけようとする。
- (2)図形の構成要素間の関係などに着目し図形の性質を見だし、論理的に思考する力や不確実な事象に着目し確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数理的に考察する力を養う。
- (3)数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

3 指導の重点

- ・「場合の数と確率」においては、順列・組合せを利用して確率が確実に計算できるようにする。
- ・「図形の性質」においては、三角形や円などの基本的な図形の性質について理解させる。また、空間における直線や平面の位置関係を理解し、正多面体などの学習を通して空間図形に対する見方を豊かにする。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	・図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見だし、論理的に考察する力を身につけている。 ・不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力を身につけている。	・数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしたりしている。

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテスト(定期考査、課題テスト、小テスト等)の分析 ・長期休業中の課題等の提出物などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテスト(定期考査、課題テスト、小テスト等)の分析 ・長期休業中の課題等の提出物 ・授業の取り組み(授業態度、発言の様子、学習活動への参加状況など)などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・長期休業中の課題等の提出物 ・授業の取り組み(授業態度、発言の様子、学習活動への参加状況など)などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点 「A:十分に満足できる」、「B:おおむね満足できる」、「C:努力を要する」で評価します。 内容のまとまりごとの評価基準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	教材名	学習活動(指導内容)	授業 時数	評価方法
4 5 6 7 8 9	1章 場合の数と確率	場合の数 確率	・集合の概念や基本的な事項を理解する。要素の個数の求め方を理解し具体的な場面で利用できるようにする。 ・数え上げの原則、順列、組合せの意味を理解させ、その総数を求められるようにする。 ・試行、事象、確率の意味、および確率の基本性質を理解させる。また、排反事象、余事象、独立試行、反復試行の確率が計算できるようにする。 ・確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断したり、期待値を意思決定に活用できるようにする。	20 20	定期考査 課題テスト 小テスト 課題等の提出状況 授業の取り組み
10 11 12 1 2 3	2章 図形の性質	三角形の性質 円の性質 作図 空間図形	・外角の場合を含めた角の二等分線と辺の比の関係、重心、内心、外心などの性質の扱い、これらの図形の性質を図形の考察に活用できるようにする。 ・チェバやメネラウスの定理を理解させる。 ・円に内接する四角形の性質および四角形が円に内接するための条件、円の接線と接点を通る弦とのなす角の性質を理解させる。 ・作図の基本を元にして、平行線や分点の作図方法を理解させる。 ・単位の長さの線分が与えられたとき、いろいろな長さの線分を作図する方法を理解させる。 ・空間における直線や平面の位置関係を理解させる。 ・多面体の性質について理解させる。	10 10 3 7	定期考査 課題テスト 小テスト 課題等の提出状況 授業の取り組み

計 70 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

長期休業中における課題、授業の中で配付する演習プリント、副教材の問題演習、授業ノート

8 担当者からの一言

授業は基礎・基本の習得を目標に行います。テストだけではなく、毎回の授業の取り組み状況も重視しますので、授業には積極的に参加しましょう。そして授業の中の「なぜ？」は積極的に質問し、最後には「わかった」となるように努力をしましょう。また、授業だけではなかなか身に付くものではありません。問題演習を数多くこなし、確かな力を身に付けてください。そのためには家庭学習の充実を心掛けて下さい。

教科(科目)	保健体育（体育）	単位数	2単位	学年(コース)	2学年 必修
使用教科書	大修館書店『現代高等保健体育』				
副教材等	大修館書店『現代高等保健体育ノート』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を持つ生徒を育成します～ ①社会の発展に貢献しようとする大きな志を持って、主体的に地域の生活を創造できる能力を持つ生徒を育成します。 ②ビジネスシーンにおいて様々な他者と関わり、チームワークを重んじながら課題を発見し、解決への道筋を立てる力を備えた生徒を育成します。 ③自己を管理する力を持ち、市民としての社会的責任を自覚する勤勉な態度の生徒を育成します。 ④世界には多様な価値観があることを理解し、自分の考えを適切な言葉で表現し、コミュニケーションを図ることが出来る生徒を育成します。
カリキュラム・ポリシー	～上越地域唯一の商業を専門とした高等学校として、生徒の多様な進路に対応した教育活動を行います～ ①1年生では基礎学力の充実に努めるとともに、積極的に将来の自分について探求する姿勢を育成します。 ②2年生では商業科目を系統的に学習することを通して、高い専門性を追求します。 ③3年生では学校のエデュケーション全体を通して、実社会で必要とされるビジネスマナーの習得を目指します。 ④各学年における探究的な学習活動や体験学習、教科横断的な学習により、深い学びを実践していきます。

2 学習目標

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

〈知識・技能〉各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。

〈思考・判断・表現〉運動や健康についての自他や社会の課題発見し、合理的、計画的に解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。

〈主体的に取り組む態度〉生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

3 指導の重点

- ①運動の実践を通して、高校生らしい心身の発達と体力の向上を図る。
- ②各競技の特性を理解し、スポーツの楽しさや喜びを味わうことができるようにする。
- ③運動の実践や準備・後片付けを通して公正、協力、責任などの態度を育てる。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに継続するための理論について理解しているとともに、目的に応じた技能を身に付けている。また、個人及び社会生活における健康・安全について総合的に理解しているとともに、技能を身に付けている。	自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。また、個人及び社会生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して総合的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に主体的に取り組もうとしている。また、健康を大切にし、自他の健康の保持増進や回復及び健康な社会づくりについての学習に主体的に取り組もうとしている。

5 評価方法

評価方法	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、 ・技能テスト などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言・討論への取組の観察 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言・取組の観察 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」 で評価します。 内容のまとまりごとの評価基準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	体づくり運動	6		各種体づくり運動・短距離走	6	技能テスト 行動観察 記録分析 ▼
5	選択Ⅰ	12		「サッカー」「ソフトテニス」「ソフトボール」から選択	12	
6	【雨天時】 バスケットボール *10月まで 選択Ⅱ *10月まで	10		2対2を始めとしたグループでの技能獲得を目指す。	10	
7		12		「陸上競技」「ソフトテニス」「ソフトボール」から選択	12	
8						
9	陸上競技	8		持久走(男子:4.0Km 女子:3.0Km) 「バスケットボール」「バドミントン」「卓球」「ダンス」から選択	8	
10	選択Ⅲ	12			12	
11	体づくり運動	4		体づくり運動(縄跳び等を活用)	4	
12	体育理論	6	保健ノート	運動・スポーツの学び方	6	
1						
2						筆記試験
3						保健ノート提出

計 70 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

- ・種目ごとに技能テストがあります。
- ・長期見学者は、レポート提出があります。

8 担当者からの一言

技能の向上を図り、主体的に取り組めるようにしましょう。

教科(科目)	保健体育（保健）	単位数	1単位	学年(コース)	2学年 必修
使用教科書	大修館書店『現代高等保健体育』				
副教材等	大修館書店『現代高等保健体育ノート』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を持つ生徒を育成します～ ①社会の発展に貢献しようとする大きな志を持って、主体的に地域の生活を創造できる能力を持つ生徒を育成します。 ②ビジネスシーンにおいて様々な他者と関わり、チームワークを重んじながら課題を発見し、解決への道筋を立てる力を備えた生徒を育成します。 ③自己を管理する力を持ち、市民としての社会的責任を自覚する勤勉な態度の生徒を育成します。 ④世界には多様な価値観があることを理解し、自分の考えを適切な言葉で表現し、コミュニケーションを図ることが出来る生徒を育成します。
カリキュラム・ポリシー	～上越地域唯一の商業を専門とした高等学校として、生徒の多様な進路に対応した教育活動を行います～ ①1年生では基礎学力の充実に努めるとともに、積極的に将来の自分について探求する姿勢を育成します。 ②2年生では商業科目を系統的に学習することを通して、高い専門性を追求します。 ③3年生では学校の教育活動全体を通して、実社会で必要とされるビジネスマナーの習得を目指します。 ④各学年における探究的な学習活動や体験学習、教科横断的な学習により、深い学びを実践していきます。

2 学習目標

保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育成する。 〈知識・技能〉個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。 〈思考・判断・表現〉健康についての自他や社会の課題発見し、合理的、計画的に解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。 〈主体的に取り組む態度〉生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。
--

3 指導の重点

健康に関する興味・関心や課題解決への意欲を高めるとともに、知識を活用する学習活動を重視して、思考力・判断力等を育てます。
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。	健康についての自他や社会の課題発見し、合理的、計画的に解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を身につける。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を実践する。

5 評価方法

評価方法	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、 学期ごとの定期考査 保健ノートやレポートなどの提出物などの内容確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 学期ごとの定期考査 保健ノートやレポートなどの提出物などの内容確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 授業中の発言、発表や討論への取組の観察 保健ノートやレポートなどの提出物などの内容確認 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」 で評価します。 内容のまとまりごとの評価基準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	生涯を通じる健康 健康を支える環境づくり	10	保健ノート	1 ライフステージと健康	2	授業中の発言 (行動の確認) 討議の様子(観察) 保健ノート (記述の確認)
5				2 思春期と健康	2	
6				3 性意識と性行動の選択	2	
7				4 妊娠・出産と健康	2	
8				5 避妊法と人工妊娠中絶	2	
9		10		6 結婚生活と健康	2	
10				7 中高年期と健康	2	
11				8 働くことと健康	2	
12				9 労働災害と健康	2	
1				10 健康的な職業生活	2	
2		8		1 大気汚染と健康	2	
3				2 水質汚濁、土壌汚染と健康	2	
4				3 環境と健康にかかわる対策	2	
5				4 ごみ処理と上下水道の整備	2	
6		7		5 食品の安全性	1	
7				6 食品衛生にかかわる活動	1	
8				7 保健サービスとその活用	1	
9				8 医療サービスとその活用	1	
10	9 医薬品の制度とその活用		1			
11	10 さまざまな保健活動や社会的対策		1			
12	11 健康に関する健康づくりと社会参加		1			

計 35 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

学期ごとに定期考査があります。
保健体育ノートやレポートなどの提出があります。

8 担当者からの一言

身近な健康問題や健康の考え方について学び、健やかな生活が送れるようにしていきましょう。

教科(科目)	外国語科(英語コミュニケーションⅡ)	単位数	4単位	学年(コース)	2学年 必修
使用教科書	数研出版『BIG DIPPER English CommunicationⅡ』				
副教材等	数研出版『BIG DIPPER English CommunicationⅡ WORKBOOK』、旺文社『英単語ターゲット1200』、旺文社『書き込み式ノート英単語ターゲット1200Workbook2』、文英堂『WISH 総合英語』、文英堂『WISH ENGLISH GRAMMAR 21UNITS』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～上越地域唯一の商業を専門とした高等学校として、生徒の多様な進路に対応した教育活動を行います～ ①1年生では基礎学力の充実に努めるとともに、積極的に将来の自分について探求する姿勢を育成します。 ②2年生では商業科目を系統的に学習することを通して、高い専門性を追求します。 ③3年生では学校の教育活動全体を通して、実社会で必要とされるビジネスマナーの習得を目指します。 ④各学年における探究的な学習活動や体験学習、教科横断的な学習により、深い学びを実践していきます。
カリキュラム・ポリシー	～このような生徒を求めています～ ①将来は自分でお店を持つなど、起業に関心がある生徒。 ②事務や販売などの仕事につくことを目指しており、そのための知識を学びたい生徒。 ③生まれ育った地域のために自分に何が出来るか考えている生徒。 ④新しいことに挑戦してみたいという積極性があり、進路希望実現のために努力を惜しまない生徒。 ⑤健康的で規則的な生活習慣をもち、ルールやマナーを守る生徒。

2 学習目標

英語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれら結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 英語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。 (2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、英語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。 (3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。
--

3 指導の重点

(1) 日常的・社会的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、一定の支援を活用すれば、必要な情報を読んだり聞いたりして、話し手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりできること。 (2) 日常的・社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、一定の支援を活用すれば、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けたり、論理的に注意して話して伝え合ったりできること。 (3) 日常的・社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、情報や考え、気持ちなどを論理的に注意したり文章を書いたりして伝えることができること。
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・文章を聴き取る（読み取る）ために必要となる語彙や表現、文の構造を理解している。 ・情報や考えを述べる（伝え合う・書く）ために必要となる語彙や表現、音声等を理解している。 ・英文を聴き取る（読み取る）技能を身に付けている。 ・日常的な話題や社会的な話題についての情報や考えを理由と共に話して伝える（伝え合う・書く）技能を身に付けている。	目的や場面、状況などに応じて、 ・英語を聞いて、概要や要点をとらえている。 ・英語を読んで、概要や要点をとらえている。 ・情報や自分の考えなどを聞いたり読んだりしたことを元に、理由と共に英語で書いている。 ・情報や自分の考えなどを聞いたり読んだりしたことを元に、理由と共に英語で話している。（伝え合っている）	・文化に対する理解を深めようとしている。 ・授業や課題に粘り強く取り組もうとしている。 ・学習の進め方について、自分で調整しようとしている。

5 評価方法

評価方法	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、ペーパーテストやパフォーマンス（以下PT）、単元テスト等の分析、レポートやワークシート（以下WS）、課題、提出物などの内容の確認などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、ペーパーテストやPT、単元テスト等の分析、授業中の発言、発表や討論への取り組みの観察、レポートやWS、課題、提出物などの内容の確認などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、授業中の発言、発表や討論への取り組みの観察、レポートやWS、課題、提出物などの内容の確認、振り返りシート（以下RS）の記述の分析などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」 で評価します。 内容のまとまりごとの評価基準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	学校生活 異文化理解	14 [聞くこと] [読むこと] [書くこと] [話すこと (やりとり)]	Lesson 1 Why Don't You Come to School in Pajamas?	・海外のユニークな学校行事 ・受動態【復習】/不定詞【復習】/ 助動詞+be+過去分詞【復習】	14	WS (記述の確認) WS (記述の点検) 活動の様子 (行動の確認) RS (記述の確認)
5	芸術 社会	14 [聞くこと] [読むこと] [話すこと (発表)]	Lesson 2 Is Seeing Believing?	楽しい「だまし絵アート」 関係代名詞の限定用法【復習】/関係代名詞の継続用法①/SVO (O=wh-節)/現在完了【復習】/過去完了【復習】 ・パフォーマンステスト	14	WS (記述の確認) WS (記述の点検) 発表の様子 (行動の確認) 単語帳提出
中間考査						
6	健康 生活	14 [聞くこと] [読むこと] [話すこと (やりとり)]	Lesson 3 Do You Get Enough Sleep?	よい睡眠をとるには 仮定法過去【復習】/関係代名詞 what【復習】/関係副詞 when【復習】/関係副詞 where【復習】	14	WS (記述の確認) WS (記述の点検) 活動の様子 (行動の確認)
7 ・ 8	言語 コミュニケーション	14 [聞くこと] [読むこと] [書くこと]	Lesson 4 Do You Want to Speak English like a Native Speaker?	英語の多様性について 関係代名詞の継続用法②/関係副詞 why【復習】/ SVO1O2 (O2=that 節)	14	WS (記述の確認) WS (記述の点検) 活動の様子 (行動の確認) ワークブック提出
期末考査						
9	社会 福祉	14 [聞くこと] [読むこと] [話すこと (やりとり)]	Lesson 5 Universal Design: Convenient for All	ユニバーサルデザインの役割と課題 現在分詞の分詞構文【復習】/進行形の受動態 (be 動詞+being+過去分詞) /関係副詞 where の継続用法/形式目的語 it	14	WS (記述の確認) WS (記述の点検) 発表の様子 (行動の確認) 作品内容の分析
10	人物 人生	14 [聞くこと] [読むこと] [話すこと (やりとり)]	Lesson 6 Wakamiya Masako: The World's Oldest Game App Developer	81歳でゲームアプリをつくった若宮正子さん SVC (C=現在分詞/過去分詞) /受動態の分詞構文/ 助動詞+have+過去分詞 / SVOC (C=過去分詞) ・パフォーマンステスト	14	WS (記述の確認) WS (記述の点検) 活動の様子 (行動の確認) RS (記述の確認) 単語帳提出
中間考査						
11	技術革新 自然	14 [聞くこと] [読むこと] [話すこと (やりとり)]	Lesson 7 Learning from Nature	自然界の生物をヒントにして開発されたものの省略/動名詞の意味上の主語/未来進行形 (will be+ing) /完了形の不定詞 (to have+過去分詞)	14	WS (記述の確認) WS (記述の点検) 活動の様子 (行動の確認)
12	文化 食生活	14 [聞くこと] [読むこと] [話すこと (発表)]	Lesson 8 The Wisdom of Preserving Food	保存食の魅力と可能性 仮定法過去完了/ (as if+S+仮定法過去) /Without ~ /命令文 (レシビ)【復習】 ・パフォーマンステスト	14	WS (記述の確認) WS (記述の点検) 発表の様子 (行動の確認) RS (記述の確認) ワークブック提出
期末考査						

1	経済 労働	14 [聞くこと] [読むこと] [書くこと] [話すこと (やりとり)]	Lesson 9 The Sharing Economy: Something for everyone?	シェアリングエコノミーとは未来完了 〈will have+過去分詞〉 / 無生物主語構文 ① 〈enable+O (人)+to-不定詞〉 / SVC (C=that 節) / 無生物主語構文② 〈make+O (人)+原形 不定詞〉	14	WS(記述の確認) WS (記述の点検) レポート内容の分析 RS (記述の確認) 単語熟語提出
2 ・ 3	環境 社会	14 [聞くこと] [読むこと] [話すこと (やりとり)]	Lesson 10 Sand and Concrete: A Basis of Our Life	知られざる世界の砂不足について関係副詞 when の継続用法 / 複合関係代名詞 whatever / 倒置 ・パフォーマンステスト	14	WS (記述の確認) WS (記述の点検) 活動の様子 (行動の確認) RS (記述の確認) ワークブック提出
学年末考査						

計 140 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

小テスト (朝学習、週末課題、単語テストを含む)、授業用ワークシート、ワークブックなど

8 担当者からの一言

英語は言語であり、人と人とのコミュニケーションを図る手段です。日頃から相手の話をよく聞き、自分の考えを述べる習慣をつけましょう。授業では、積極的にペアワークやグループワークに参加し、他者と協力して行動していく姿勢が大切です。

教科(科目)	家庭科（家庭基礎）	単位数	単位	学年(コース)	2学年 必修
使用教科書	実教出版 『位家庭基礎 気づく力 築く未来』				
副教材等	実教出版 『家庭基礎 気づく力 築く未来学習ノート』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～上越地域唯一の商業を専門とした高等学校として、生徒の多様な進路に対応した教育活動を行います～ ①1年生では基礎学力の充実に努めるとともに、積極的に将来の自分について探求する姿勢を育成します。 ②2年生では商業科目を系統的に学習することを通して、高い専門性を追求します。 ③3年生では学校の教育活動全体を通して、実社会で必要とされるビジネスマナーの習得を目指します。 ④各学年における探究的な学習活動や体験学習、教科横断的な学習により、深い学びを実践していきます。
カリキュラム・ポリシー	～このような生徒を求めています～ ①将来は自分でお店を持つなど、起業に関心がある生徒。 ②事務や販売などの仕事につくことを目指しており、そのための知識を学びたい生徒。 ③生まれ育った地域のために自分に何が出来るか考えている生徒。 ④新しいことに挑戦してみたいという積極性があり、進路希望実現のために努力を惜しまない生徒。 ⑤健康的で規則的な生活習慣をもち、ルールやマナーを守れる生徒。

2 学習目標

・人間の生涯にわたる発達と生活を総合的に捉え、家族・家庭、衣食住、消費や環境など、生活を主体的に営むために必要な基礎的な知識と技術を習得し、家庭生活の充実向上を図る能力と態度を身につける。 ・家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定、解決策を構想・実践、考察するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。
--

3 指導の重点

知識だけでなく終わるのではなく現在の生活を客観的に見つめ、将来自立した生活を送ることのできる実践力を身につける。
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活、環境などの基礎的なことについて理解しているとともに、それらにかかわる技能を身につけている。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見だし課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけている。	様々な人と協働し、よりよい社会の構築に向けて課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返ったりして、地域社会に参画使用するとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、 - ワークシートをはじめとした提出物の内容 - 定期考査 - 実習への取り組み - 実技試験 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 - 定期考査 - 授業への取り組み（授業中の発言、発表などへの取り組み） - 提出物の内容 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 - 授業への取り組み（授業中の発言、発表などへの取り組み） - 提出物の内容 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価基準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
	【第1章】これから の人生について考え てみよう	2	ワークシ ート	・将来や家族のあり方、生き方を見つめ る。	2	レポートの作成(ライフ イベントの書き出し、自己分 析)
	【第2章】自分らし い生き方と家族	4	ワークシ ート		4	授業の取組状況
	【第6章】食生活を 作る	2 2	視聴覚教材 ワークシ ート	・食品の表示と保存(食品表示調べ) ・食品衛生 ・調理実習:調理の基本操作、食品の調理 性の学習	2 2	授業の取組状況 レポートの作成 調理実習観察
	【ホームプロジェク ト】			・夏休みにホームプロジェクトに取り組 む		定期テスト 夏休み課題
8 9 10 11	【第4章】高齢者と かわる	1 4	視聴覚教材 外部講師	・高齢期の理解・高齢者の心身の特徴・高 齢社会を支える仕組み	1 4	グループでの話し合 い・発表(高齢者の生 活場面を体験した振り 返り)
	【第5章】社会とか かわる	2	ワークシ ート	・私たちの生活と福祉	2	
	【第3章】子供とか かわる	2 2	視聴覚教材	・乳幼児期の心身の発達の特徴を知る	2 2	授業の取組状況 レポート作成
	【学校家庭クラブ活 動】		視聴覚教材	・地域の保育園に訪問し、手作りおもちゃ をプレゼントして、子どもとふれあう		おもちゃ製作 定期テスト
12	【第8章】住生活を つくる	1 4	視聴覚教材 ワークシ ート	・快適な住環境・住居の安全対策	1 4	授業の取組状況 授業の取組状況
1 2 3	【第7章】衣生活を つくる	1 5	基礎縫い製 作教材	・被服製作(基礎縫いの習得)	1 5	被服実習観察 学習プリント
	【第9章】消費行動 を考える	1 0	視聴覚教材 ワークシ ート	・被服の役割(衣生活と被服の機能・役割) ・被服の管理(被服の手入れ・保管) ・家庭経済、契約、現代の消費者問題など を理解する	1 0	定期テスト 授業の取組状況 確認テスト

計 105 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

- ・授業時に配布されるプリント
- ・実験時に配付されるレポート
- ・ホームプロジェクト
- ・被服製作品など
- ・実習は安全第一です。担当者の指示に必ず従い、事故が無いように取り組む。

8 担当者からの一言

授業を通して、今の生活を見つめ、将来の生活を考える視点を持つてほしいです。そして、いずれか一人暮らしをする時のために、家庭科で学ぶ知識や技術を取得して、自分や家族の生活をより充実させることを目指してください。成人年齢は18歳です。自分の発言や行動に責任が持てるように、いまから準備していきましょう。授業では、仲間と話し合ったり、発表し合ったり、問題解決のために考えをまとめたりと、実習活動も多いので、積極的に取り組んでください。自立した大人になるために、頑張ってください。

教科(科目)	商業（マーケティング）	単位数	2単位	学年(コース)	2学年 必修
使用教科書	東京法令出版『マーケティング』				
副教材等	東京法令出版『マーケティングワークブック』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～上越地域唯一の商業を専門とした高等学校として、生徒の多様な進路に対応した教育活動を行います～ ①1年生では基礎学力の充実に努めるとともに、積極的に将来の自分について探求する姿勢を育成します。 ②2年生では商業科目を系統的に学習することを通して、高い専門性を追求します。 ③3年生では学校の教育活動全体を通して、実社会で必要とされるビジネスマナーの習得を目指します。 ④各学年における探究的な学習活動や体験学習、教科横断的な学習により、深い学びを実践していきます。
カリキュラム・ポリシー	～このような生徒を求めています～ ①将来は自分でお店を持つなど、起業に関心がある生徒。 ②事務や販売などの仕事につくことを目指しており、そのための知識を学びたい生徒。 ③生まれ育った地域のために自分に何が出来るか考えている生徒。 ④新しいことに挑戦してみたいという積極生があり、進路希望実現のために努力を惜しまない生徒。 ⑤健康的で規則的な生活習慣をもち、ルールやマナーを守れる生徒。

2 学習目標

(1) マーケティングについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) マーケティングに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 (3) ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、マーケティングに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
--

3 指導の重点

このマーケティングは1年時の「ビジネス基礎」に続き、さらに専門的に、ビジネスについて学ぶ大切な理論科目である。6月・11月の全商ビジネス計算実務検定の学習を加えることになった。2月の全商商業経済検定の「マーケティング」を取得することで、3年時に1級を取得することが容易になることを認識させることが大切である。他の各商業科目も専門的になるが、それが「何故何のために」なのかを学ぶことができる重要な科目である

4 評価の観点の趣旨

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
企業における事例など実際のマーケティングと関連付けられ、ビジネスの様々な場面で役に立つマーケティングに関する知識と技術を身に付けている。	マーケティングをはじめとした様々な知識、技術などを活用し、マーケティングに関する課題を発見するとともに、企業活動が社会に及ぼす影響を踏まえ、顧客についての理解、市場の動向、マーケティングに関する理論、データ、成功事例や改善を要する事例など科学的な根拠に基づいて工夫してよりよく解決することができる。	ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自らマーケティングについて学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識を持ち、他者と信頼関係を構築して積極的に関わり、市場調査の実施と情報の分析、製品製作、価格政策、チャネル政策、プロモーション政策の企画と実施などに責任を持って取り組むことができる。

5 評価方法

評価方法	評価は次の観点から行います。		
	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、定期考査の結果、確認テスト、提出物の内容などから評価します。	以上の観点を踏まえ、定期考査の結果、確認テスト、提出物の内容などから評価します。	以上の観点を踏まえ、定期考査の結果、確認テスト、提出物の内容などから評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。 内容のまとまりごとの評価基準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価 方法
4	第1章「現代市場とマーケティング」 第1節 総論 第2節 マーケティングの歴史と発展 第3節 マーケティングの理念 第4節 市場環境の変化とマーケティング 第5節 マーケティングのプロセス	4	教科書	日本における生産・流通・消費の動向、人口動態などマーケティングを取り巻く市場環境の変化について扱い、様々な分野でマーケティングが重要となっている現状について、企業におけるマーケティングの具体的な事例と関連付けて学ぶ。 企業と顧客との関係、企業による提供価値、社会性といった視点からマーケティングに求められる範囲や考え方が拡大していること、顧客満足の実現や顧客価値の創造などを通じて顧客を創造し続けることの重要性について学ぶ。 環境分析、セグメンテーション、標的市場の選定、ポジショニング、マーケティング・ミックスの考え方及びマーケティング管理の重要性について扱い、マーケティング計画の立案に際して、競争戦略及び消費者保護や環境問題への対応など企業の社会的責任を踏まえることへの重要性について学ぶ。	6	考查 検定 考查課題
5	第2章「消費者行動」 第1節 消費者行動 第2節 消費者関与 第3節 購買意思決定プロセス 第4節 製品の普及過程 第5節 購入後の満足とロイヤリティの形成	10	問題集	消費者心理、消費者の意思決定の過程と購買行動及び消費者の行動に影響を及ぼす要因について扱い、購入後の満足やロイヤリティの形成など企業活動に影響を及ぼす購入後の消費者行動について学ぶ。	20	
6	第3章「市場調査」 第1節 市場調査の目的と方法 第2節 情報の分析 第4章「製品政策」 第1節 製品製作の概要 第2節 製品企画 第3節 販売計画と販売予測 第4節 販売計画の立案	8		※ 6月のビジネス計算実務検定1級「普通計算」の学習を合わせて行う。 マーケティングにおける様々な市場調査の目的、仮説の構築からその検証までの手順、既存の資料による調査と実態調査の違い、観察やインタビューなど定性調査と定量調査の違いと手順及び調査サンプルの抽出法について扱い、市場調査を行う課題を設定し、情報の収集を行う学習活動について学ぶ。 統計的手法、作成し、プレゼンテーションを行う学習活動について学ぶ。		
7	第5節 生産計画 第6節 仕入計画 第7節 在庫管理	10		製品政策の目的と重要性について扱い、ブランドの考え方、ブランドを構築することの重要性、受容性について扱い、具体的な事例と関連付けて学ぶ。 顧客のニーズを解決する手段としての製品企画の立案の方法、アイデアや計画を具体的な製品にする過程について扱い、需要や生産設備、資金などを踏まえた生産計画の立案の方法について学ぶ。		
8	第8節 製品政策の動向			流通業を想定して、仕入計画の意義、仕入計画の立案の手順について学ぶ。		
				マーケティングにおける様々な市場調査の目的、仮説の構築からその検証までの手順、既存の資料による調査と実態調査の違い、観察やインタビューなど定性調査と定量調査の違いと手順及び調査サンプルの抽出法について扱い、市場調査を行う課題を設定し、情報の収集を行う学習活動について学ぶ。		
				統計的手法を用いた情報の分析方法について扱い、市場調査で得られた情報などに基いて仮説を立てるとともに、仮説を検証して報告書を作成し、プレゼンテーションを行う学習活動について学ぶ。		
				製品政策の目的と重要性について扱い、ブランドの考え方、ブランドを構築することの重要性、受容性について扱い、具体的な事例と関連付けて学ぶ。 顧客のニーズを解決する手段としての製品企画の立案の方法、アイデアや計画を具体的な製品にする過程について扱い、需要や生産設備、資金などを踏まえた生産計画の立案の方法について学ぶ。 流通業を想定して、仕入計画の意義、仕入計画の立案の手順について学ぶ。		

			教科書	販売計画と販売予測の意義、販売計画の立案の手順、市場需要を測定する方法、売上高を予測する方法及び在庫管理の意義と方法について学ぶ。 顧客のニーズの多様化に対応した様々な製品の提供、製品のサービス化（サービス・ドミナント・ロジック）など製品政策の動向について学ぶ。 企業と顧客との関係の変化について扱い、顧客が製品の新しい使い方や改良点を生み出し、企業と共に製品開発をしたり、顧客が新しい顧客を生み出したりするなど顧客との共創の具体的な事例を用いて分析し、考察する。 同業又は異業種の企業と協働で行う製品政策について扱い、具体的な事例を用いて分析し、考察する。		
9 ～ 10	第5章「価格政策」 第1節 価格政策の概要 第2節 価格政策の動向 第3節 価格に関する法的規制	8 8	問題集	価格政策の目的と重要性及び価格に関する法的な規制と法規に基づいて価格政策を立案して実施することの重要性について学ぶ。 浸透価格、上澄価格、威光価格、端数価格などの価格の種類と目的にあった価格の選定方法、生産、流通、販売に関わるコスト、競合他社との関係、インターネットを活用して消費者が価格を比較することが容易になっていることなど価格決定に影響を及ぼす要因及びコスト志向、需要志向、競争志向、消費者志向の価格決定の考え方について学ぶ。 価格政策の動向について扱い、適切な価格政策について、具体的な事例を用いて分析し考察する。 ※ 11月のビジネス計算実務検定1級「ビジネス計算」の学習を合わせて行う。	30	考查課題
11 ～ 12	第6章「チャネル政策」 第1節 チャネル政策の概要 第2節 チャネルの種類と特徴 第3節 チャネル政策の動向	8 6		チャネル政策の目的と重要性及びチャネル政策を立案し実施する際に販売データを活用することの重要性について学ぶ。 商圈を踏まえて店舗を立地することの重要性について扱い、具体的な事例を用いて分析し考察する。 流通の意義、環境の変化による流通の変化、消費財と生産財のチャネルの種類と特徴、多様なチャネルとその構造について学ぶ。 流通が社会環境や情報技術の進歩などによって変化していること及び流通の変化を捉えたチャネル政策の動向について扱い、適切なチャネル政策について、具体的な事例を用いて分析し、考察する。		考查検定
1 2 3	第7章「プロモーション政策」 第1節 プロモーション政策の概要 第2節 プロモーションの方法 第3節 プロモーション政策の動向 第4節 プロモーションの法的な規制	4 4 		プロモーション政策の目的と重要性、統合型マーケティング・コミュニケーションとプロモーション・ミックスの考え方及びプロモーションに関する法的な規制と法規に基づいてプロモーション政策を立案して実施することの重要性について学ぶ。 企業活動としてのプロモーションが社会的な影響力をもつことについて扱い、具体的な事例と関連付けて分析し、考察する。 広告、セールス・プロモーション、パブリック・リレーションズ、販売員活動、店舗設計、商品陳列の方法及びプロモーションの効果測定の方法について学ぶ。 消費者の変化などに応じて、各種メディアの活用などプロモーションの方法が工夫されている状況、顧客などに関する膨大な量のデータが活用されている状況などプロモーション政策の動向について学ぶ。 適切なプロモーション政策と新しいプロモーションの可能性について、ソーシャルメディアの活用、消費者間での情報の伝達と共有、インターネット上の広告などの具体的な事例を用いて分析し、考察する。 企業のプロモーション政策について扱い、身近にある具体的な事例を用いて分析し、考察する。	14	考查課題

7 課題・提出物等

8 担当者からの一言

教科(科目)	商業（財務会計Ⅰ）	単位数	3単位	学年(コース)	2学年 必修
使用教科書	実教出版 『新財務会計Ⅰ』				
副教材等	実教出版 『最新段階式簿記検定問題集全商1級会計改訂版』 実教出版 『全商簿記実務検定模擬試験問題集全商1級会計』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～上越地域唯一の商業を専門とした高等学校として、生徒の多様な進路に対応した教育活動を行います～ ①1年生では基礎学力の充実に努めるとともに、積極的に将来の自分について探求する姿勢を育成します。 ②2年生では商業科目を系統的に学習することを通して、高い専門性を追求します。 ③3年生では学校の教育活動全体を通して、実社会で必要とされるビジネスマナーの習得を目指します。 ④各学年における探究的な学習活動や体験学習、教科横断的な学習により、深い学びを実践していきます。
カリキュラム・ポリシー	～このような生徒を求めています～ ①将来は自分でお店を持つなど、起業に関心がある生徒。 ②事務や販売などの仕事につくことを目指しており、そのための知識を学びたい生徒。 ③生まれ育った地域のために自分に何が出来るか考えている生徒。 ④新しいことに挑戦してみたいという積極性があり、進路希望実現のために努力を惜しまない生徒。 ⑤健康的で規則的な生活習慣をもち、ルールやマナーを守れる生徒。

2 学習目標

商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、会計情報の提供と活用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 財務会計について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 企業会計に関する法規と基準及び会計処理の方法の妥当性と課題を見いだし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応するとともに、会計的側面から企業を分析する力を養う。 (3) 会計責任を果たす力の向上を目指して自ら学び、適切な会計情報の提供と効果的な活用主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

3 指導の重点

・企業会計の意味と役割について理解させる。 ・財務会計の機能について理解させる。 ・株式会社の基礎的な会計処理について理解させる。 ・会計公準について理解させる。 ・簿記・会計の発達史の歴史を明らかにし、会計の歴史について理解させる。

4 評価の観点の趣旨

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・会計の意味や機能について正しく理解している。 ・会計法規の種類や目的について、どのようなものか正しく理解している。	・会計法規の役割を説明できる。 ・財務諸表を作成し、分析できる。	・財務会計の役割について、自ら進んで実際の事例を調べようとしている。

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、定期考査の結果、単元ごとの確認テスト、提出物とその内容などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、定期考査の結果、単元ごとの確認テスト、提出物とグループワークによる発表、その内容などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、検定試験に向けた取り組みの態度、定期考査の結果、単元ごとの確認テスト、提出物とその内容などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価基準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4 5 6 7	財務会計の基礎 企業会計制度と会計法規 貸借対照表のあらまし 資産の意味・分類・評価 負債の意味と分類 純資産の意味と分類 貸借対照表の作成	40	教科書 問題集	・企業会計の意味と役割について理解する。 ・財務会計の機能について理解する。 ・企業会計制度の意味を明らかにし、会計法規の必要性について理解する。 - 貸借対照表の作成を通じ、資産、負債、純資産の各項目を理解し、基礎的知識を身につける。	40	授業の取り組み 授業時の課題 定期考査 課題の提出
8 9 10 11	損益計算書のあらまし 損益計算の意味と基準 損益計算書の作成	20	教科書 問題集	・損益計算の意味とその二つの計算方法(財産法と損益法)について理解する。 ・収益・費用の計上時期を定める三つの認識基準(現金主義・発生主義・実現主義)、また測定基準について理解する。 ・費用収益対応の原則の役割について理解する。	20	授業の取り組み 授業時の課題 定期考査 夏季休業課題
12 1 2 3	その他の会計処理 外貨建取引 税効果会計 財務諸表の活用 連結財務諸表のあらまし 連結財務諸表の作成	25 20	教科書 問題集	・役務収益・役務原価の意味を理解する。 ・商品の販売とサービスの提供の違いについて理解する。 ・役務収益・役務原価に関する会計処理を身につける。 ・外貨建取引の意味を理解する。 ・円換算の意味を理解し、適切な会計処理を身につける。 ・為替予約の会計処理を身につける。	25 20	授業の取り組み 授業時の課題 定期考査 冬季休業課題

計 105 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

定期考査、課題テスト、単元ごとの小テスト、検定答案練習の提出課題 等

8 担当者からの一言

財務会計はすべての企業においてなくてはならない知識と技術です。簿記を習得した皆さんが株式会社会計についてその手順と趣旨を理解し、財務諸表の作成や、その財務省表から読み取れる企業情報、連結会計制度など繰り返し学び練習することで身につけてください。

教科(科目)	商業（原価計算）	単位数	3単位	学年(コース)	2学年 商業選択
使用教科書	実教出版『原価計算』				
副教材等	実教出版『最新段階式簿記検定問題集1級原価計算改訂版』、実教出版『簿記実務検定模擬試験問題集1級原価計算』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～上越地域唯一の商業を専門とした高等学校として、生徒の多様な進路に対応した教育活動を行います～ ①1年生では基礎学力の充実に努めるとともに、積極的に将来の自分について探求する姿勢を育成します。 ②2年生では商業科目を系統的に学習することを通して、高い専門性を追求します。 ③3年生では学校の教育活動全体を通して、実社会で必要とされるビジネスマナーの習得を目指します。 ④各学年における探究的な学習活動や体験学習、教科横断的な学習により、深い学びを実践していきます。
カリキュラム・ポリシー	～このような生徒を求めています～ ①将来は自分でお店を持つなど、起業に関心がある生徒。 ②事務や販売などの仕事につくことを目指しており、そのための知識を学びたい生徒。 ③生まれ育った地域のために自分に何が出来るか考えている生徒。 ④新しいことに挑戦してみたいという積極生があり、進路希望実現のために努力を惜しまない生徒。 ⑤健康的で規則的な生活習慣をもち、ルールやマナーを守る生徒。

2 学習目標

製造業における原価計算および簿記に関する基本的な知識と技術を習得させ、原価について理解させ、原価計算から得られる情報を活用する能力と態度を育てる。

3 指導の重点

- (1) 原価計算の基本的な考え方と計算方法および記帳方法を習得する。
- (2) 原価計算の役割や資料の有効な活用について理解する。

4 評価の観点の趣旨

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
原価計算に関する基礎的、基本的な知識を身につけ、原価計算の必要性を理解することができる。また、原価計算の仕組みを活かし、記帳ができる。	原価計算の仕組みや記帳、様々な計算方法をもとに、原価情報を有効に活用できる。	原価計算の意味や記帳方法に対し、興味、関心をもち主体的に、かつ協働的に取り組むことができる。

5 評価方法

評価方法	評価は次の観点から行います。		
	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、定期考査の結果、確認テスト、提出物の内容などから評価します。	以上の観点を踏まえ、定期考査の結果、確認テスト、提出物の内容などから評価します。	以上の観点を踏まえ、授業の取り組み、提出物の内容などから評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。 内容のまとまりごとの評価基準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	原価と原価計算 原価計算のあらまし 工業簿記-製造業におけ る簿記	1 2 6	教科書 問題集	・原価の意味とその要素の分類および原価計算の目的や意味、手続き、 機関、種類などについて理解する。 ・製造業における経営活動と原価計算との関係および簿記の特色に ついて理解する。また、工業簿記の勘定体系を理解する。	35	学習態度
5	材料費の計算 労務費の計算 経費の計算	4 4 2		・材料費の分類および材料の仕入、保管、払出、消費における記帳法 を習得し、予定価格を用いた材料消費高の計算方法についても理解す る。 ・労務費の分類および賃金の支払い、消費における計算と記帳法を習 得し、予定賃率を用いた賃金消費高の計算方法についても理解する。 ・経費の分類および消費高の計算と記帳法を習得、理解する。	50	中間考査 課題
6	個別原価計算	8		・個別原価計算表の作成、原価計算表と製造勘定の関係、製造間接費 の配賦、仕損品、作業くずの処理法を習得する。また、造間接費の予 定配賦についても学習する。		期末考査 課題 課題考査 学習態度
7	部門別個別原価計算	8		・部門別計算の必要性および原価部門の設定、部門個別費と部門共通 費の区分について理解する。また、部門費配分表および部門費振替表の 意味と作成法を習得する。さらに、製造部門費の予定配賦についても 学習する。		
8	総合原価計算	13		・総合原価計算の特色を個別原価計算との違いを明らかにしながら 理解し、月末仕掛品の計算方法についても習得する。また、単純総合 原価計算表、等級別総合原価計算表、組別総合原価計算表、工程別 総合原価計算表の考え方と計算方法、記帳方法を習得する。		
9	工程別総合原価計算 総合原価計算における 減損・仕損じなどの処理	4 2		・製品の完成と販売に関する記帳を習得する。また、工場会計が本社 会計から独立している場合の本社と工場間の取引の記帳についても理 解する。		
10	製品の完成と販売 決算と本社・工場間の取 引	2 4		・製造業における決算の手続きを理解し、製造原価報告書を作成する。 また、財務諸表においては商業簿記との違いを理解する。 ・製造業における決算の手続きを理解し、製造原価報告書を作成する。 また、財務諸表においては商業簿記との違いを理解する。	20	中間考査 課題
11	標準原価計算(その1) 標準原価計算(その2)	3 12		・原価管理の基本的な意味および標準原価計算一連の手続きについて 理解する。また、差異分析やバーチャルプランによる記帳法について も習得する。		期末考査 課題 課題考査 学習態度 検定 課題
12	直接原価計算(その1) 直接原価計算(その2)	2 8		・直接原価計算が利益計算に役立つことを理解し、簡単な計算例を通し て、売上高、原価、利益の関係を習得する。		
1	演習問題 総合問題 総合問題	20		・問題演習を行い、解法等を習得する。		
2	模範解答問題					
3	復習					

計 105 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

原価計算の基本的な考えを理解するために問題演習を多くこなし、課題提出を課する。

8 担当者からの一言

1年次に学習した商業簿記を活用し、私たちの生活を取りまく製品の原価について学習します。このことから、「モノには原価がある」という考え方を身に付け、原価に対する考え方や利益を計上することの重要性を身に付けてほしいと思います。

教科(科目)	商業（ソフトウェア活用）	単位数	3単位	学年(コース)	2学年 商業選択
使用教科書	実教出版『ソフトウェア活用』				
副教材等	実教出版『全商ビジネス文書実務検定模擬試験問題集1級』 実教出版『全商情報処理検定模擬試験問題集1級(ビジネス情報)』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～上越地域唯一の商業を専門とした高等学校として、生徒の多様な進路に対応した教育活動を行います～ ①1年生では基礎学力の充実に努めるとともに、積極的に将来の自分について探求する姿勢を育成します。 ②2年生では商業科目を系統的に学習することを通して、高い専門性を追求します。 ③3年生では学校の教育活動全体を通して、実社会で必要とされるビジネスマナーの習得を目指します。 ④各学年における探究的な学習活動や体験学習、教科横断的な学習により、深い学びを実践していきます。
カリキュラム・ポリシー	～このような生徒を求めています～ ①将来は自分でお店を持つなど、起業に関心がある生徒。 ②事務や販売などの仕事につくことを目指しており、そのための知識を学びたい生徒。 ③生まれ育った地域のために自分に何が出来るか考えている生徒。 ④新しいことに挑戦してみたいという積極性があり、進路希望実現のために努力を惜しまない生徒。 ⑤健康的で規則的な生活習慣をもち、ルールやマナーを守れる生徒。

2 学習目標

商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、企業活動におけるソフトウェア活用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 企業活動におけるソフトウェアの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 (3) 企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動におけるソフトウェアの活用主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
--

3 指導の重点

・ビジネスの場面において、適切なソフトウェアを選択し、活用できることを目指します。 ・ビジネスの場面を想定し、企業活動におけるソフトウェア活用について、組織の一員としての役割を果たすことができる態度を育てます。
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
企業活動におけるソフトウェアの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにしている。	企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。	企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動におけるソフトウェアの活用主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

5 評価方法

評価方法	評価は次の観点から行います。		
	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、定期考査の結果、確認テスト、提出物の内容などから評価します。	以上の観点を踏まえ、定期考査の結果、授業の取り組みの観察、提出物の内容などから評価します。	以上の観点を踏まえ、学習の取り組みの観察、提出物の内容、定期考査や検定試験の振り返りなどから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。 内容のまとまりごとの評価基準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4 5 6	1章 企業活動とソフトウェア	24	教科書 問題集	身近な事例を基に、ビジネスにおけるソフトウェアを活用する活動により、ソフトウェアの意義と重要性を理解する。 ソフトウェアの進化が、社会に与える影響を考え、関連する知識を身に付ける。	24	授業の取り組み 授業時の課題 中間考査 課題の提出
7	2章 情報通信ネットワークの活用	15	教科書 問題集	ネットワーク機器の機能や情報技術の進歩に伴う通信手段の変化について理解する。 情報通信ネットワークのシステム障害に対処するための基本的な技術を身に付ける。 情報資産を保護するため、リスク管理の方法を理解するとともに、データバックアップの技術を身に付ける。	15	授業の取り組み 授業時の課題 期末考査 課題の提出
8	5章 業務処理用ソフトウェアの活用	12	教科書 問題集	グループウェアを活用する利点と、効率的に業務を行う方法について理解する。 販売管理及び給与計算ソフトウェアを活用する利点と、効率的に業務を行う方法について理解する。	12	授業の取り組み 授業時の課題 夏季休業課題
9 10 11	3章 表計算ソフトウェアの活用	27	教科書 問題集	表計算ソフトウェアを通して、情報の集計と分析について理解し、分析結果を表現する能力を身に付ける。 マクロ機能を用いて、手続きの自動化の考えを理解する。	27	授業の取り組み 授業時の課題 中間考査 課題の提出
12 1	4章 データベースソフトウェアの活用	14	教科書 問題集	データベースの構造を理解する。また、表を正規化するための手順を理解する。 SQLを用いた汎用的なデータベースの操作方法について理解する。	14	授業の取り組み 授業時の課題 期末考査 課題の提出 冬季休業課題
2 3	6章 情報システムの開発	13	教科書 問題集	情報システムの開発に関する基礎的な知識、技術について理解する。 コンピュータに指示を出すための手順であるアルゴリズムにつて、基礎的な知識、技術を身に付ける。	13	授業の取り組み 授業時の課題 学年末考査

計 105 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

- ・授業時の課題
- ・夏季休業、冬季休業課題

8 担当者からの一言

情報処理の内容を発展させ、ビジネスの場面に応じた適切なソフトウェアの選択やデータ処理、グラフなど図解の方法を学びます。

教科(科目)	国語（国語表現）	単位数	3単位	学年(コース)	2学年 選択
使用教科書	大修館書店『国語表現』				
副教材等	大修館書店『国語表現基礎練習ノート』 日本漢字能力検定協会『基礎から学べる文章カステップ3級対応』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～上越地域唯一の商業を専門とした高等学校として、生徒の多様な進路に対応した教育活動を行います～ ①1年生では基礎学力の充実に努めるとともに、積極的に将来の自分について探求する姿勢を育成します。 ②2年生では商業科目を系統的に学習することを通して、高い専門性を追求します。 ③3年生では学校の教育活動全体を通して、実社会で必要とされるビジネスマナーの習得を目指します。 ④各学年における探究的な学習活動や体験学習、教科横断的な学習により、深い学びを実践していきます。
カリキュラム・ポリシー	～このような生徒を求めています～ ①将来は自分でお店を持つなど、起業に関心がある生徒。 ②事務や販売などの仕事につくことを目指しており、そのための知識を学びたい生徒。 ③生まれ育った地域のために自分に何が出来るか考えている生徒。 ④新しいことに挑戦してみたいという積極性があり、進路希望実現のために努力を惜しまない生徒。 ⑤健康的で規則的な生活習慣をもち、ルールやマナーを守れる生徒。

2 学習目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 ・実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 ・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、実社会における他者との多様な関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
--

3 指導の重点

①原稿用紙の正しい使い方をはじめ、文章を書くときの基本的な約束事を身に付けることを目指す。 ②様々なテーマの課題に取り組むことで、社会に対する知見を広め、考えを深めることを目指す。 ③言語活動等を通し異なる意見に触れることで、自らの表現活動を効果的なものにすることを目指す。
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けようとしている。	「話すこと・聞くこと」「書くこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、実社会における他者との多様な関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・提出された課題などの確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・提出された課題などの確認、分析 ・振り返りシートの分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業への取組状況の観察 ・振り返りシートの分析 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価基準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
<u>4</u>	言葉と出会う	10 書くこと	言葉と表記・整った文を書く・わかりやすい文を書く	・原稿用紙の使い方の基本を習得する。段落分けや段落構成、推敲の方法について学ぶ。	10	ワークシート (確認)
<u>5</u>	伝える、伝え合う(1)	6 話すこと・聞くこと	自己紹介ゲーム・言葉のストレッチ体操	・発声、発音の練習、スピーチの練習を行う。	6	ワークシート (確認、分析) 発表の様子(確認)
<u>6</u>	伝える、伝え合う(2)	10 書くこと	絵や写真を見て書く・マイニュース記事を書こう	・伝えたいことが正確に伝わるように書く練習をする。	10	ワークシート (確認、分析)
<u>7</u>	小論文・レポート入門(1)	10 書くこと	小論文入門・反論を想定して書く	・分かりやすい表現の仕方や文章の「型」、構成の方法を学ぶ。	10	ワークシート、小論文 (確認、分析)
<u>8</u>	小論文・レポート入門(2)	10 書くこと	文章を読み取って書く・統計資料を読み取って書く	・課題文型、データ型小論文の書き方を学ぶ。	10	ワークシート、小論文 (確認、分析)
<u>9</u>	自己PRと面接(1)	8 話すこと・聞くこと	効果的な自己PR・面接にチャレンジ・グループディスカッション	・論理的な意見の述べ方や、相手の意見を尊重し、正しく聞き取る方法を学ぶ。 ・模擬面接、ディスカッションを行う。	8	ワークシート 面接、ディスカッションの様子 (確認、分析)
<u>10</u>	メディアを駆使する	8 書くこと	通信文を書き分ける・電子メールの活用・ネットを活用した情報収集	・手紙の書き方、メールの活用方法、ネットを活用した情報収集の方法等を学ぶ。	8	ワークシート (確認)
<u>11</u>	表現を楽しむ	7 書くこと	エッセイを書こう	・エッセイの構成や文体、表現などを学ぶ。	7	ワークシート エッセイ (確認、分析)
<u>12</u>	会話・議論・発表(1)	8 話すこと・聞くこと	相手や場面に応じた会話・建設的な議論の進め方	・場面に応じた話し方や生産的で実りある話し合いの進め方について学ぶ。	8	ワークシート 話し合いの様子 (確認、分析)
<u>1</u>	小論文・レポート入門(3)	12 書くこと	レポートを書く・論文を書くために	・レポートや論文の書き方を学ぶ。	12	レポート、論文 (確認、分析)

<u>2</u>	会話・議論・発表(2)	8 話すこと・聞くこと	プレゼンテーションの工夫	・プレゼンテーションの方法を学ぶ。	8	ワークシート プレゼンテーションの様子 (確認、分析)
<u>3</u>	自己PRと面接(2)	8 書くこと	志望理由書・自己推薦書を書く	・進路に関わる多様な書式に対応できる力を身に付ける。	8	ワークシート (確認)

計 105 時間 (50 分授業)

※ 領域ごとの授業時数合計

A「話すこと・聞くこと」	30時間	B「書くこと」	75時間
--------------	------	---------	------

7 課題・提出物等

・課題作文や小論文／課題ノート／時間の中で使用したワークシート／単元の振り返りシート等

8 担当者からの一言

「伝え合う力」は良好な人間関係づくりや健全な社会づくりになくてはならない力となります。授業中だけでなく、日ごろから国語に対する関心を高めていることが大切です。

教科(科目)	公民科（政治・経済）	単位数	3単位	学年(コース)	2学年 選択
使用教科書	東京書籍『政治・経済』				
副教材等	東京法令出版『政治・経済資料2024』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～上越地域唯一の商業を専門とした高等学校として、生徒の多様な進路に対応した教育活動を行います～ ①1年生では基礎学力の充実に努めるとともに、積極的に将来の自分について探求する姿勢を育成します。 ②2年生では商業科目を系統的に学習することを通して、高い専門性を追求します。 ③3年生では学校の教育活動全体を通して、実社会で必要とされるビジネスマナーの習得を目指します。 ④各学年における探究的な学習活動や体験学習、教科横断的な学習により、深い学びを実践していきます。
カリキュラム・ポリシー	～このような生徒を求めています～ ①将来は自分でお店を持つなど、起業に関心がある生徒。 ②事務や販売などの仕事につくことを目指しており、そのための知識を学びたい生徒。 ③生まれ育った地域のために自分に何が出来るか考えている生徒。 ④新しいことに挑戦してみたいという積極性があり、進路希望実現のために努力を惜しまない生徒。 ⑤健康的で規則的な生活習慣をもち、ルールやマナーを守れる生徒。

2 学習目標

現代社会の諸課題について良く理解し、その問題解決について主体的に取り組むことによって、民主主義の時代に生きる私たち日本国民にとっての公正な判断力を養うとともに、良識ある公民としての必要な能力と態度を身につけることを目標とします

3 指導の重点

- ・グローバルかつ客観的な視点で思考することができる
- ・平和を希求し、貢献できる人物を養う
- ・自己の意思考察により、自らの意思で責任ある選挙の一票を投じられる判断力を培う

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・基本的な問題や課題に関わる事柄に関心を持ち、意欲的に探求しようとしているか ・社会的事象を総合的に理解し考察しようとする態度を身につけている	政治、経済、社会、国際関係などに関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択・活用することができる	政治、経済、社会、国際関係にかかわる基本的な事項や課題について体系的、総合的に理解し、その知識を身につけている。

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、 ・年5回の定期考査 ・課題レポート ・ノート提出内容 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・年5回の定期テスト（記述論述） ・授業中の意見交換や討論の様子 ・課題レポート などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・年5回の定期テスト（記述論述） ・課題レポート ・授業中の話し合いや発表の様子や取り組み状況 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価基準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
---	-----	---------	-----	------------	----	------

4	第1編第1章 現代日本の政治		民主政治の 基本原理	・民主政治の成立(社会契約説、権力分立、法の支配)について確認し、その重要性を検証する ・基本的人権の確立、歴史的意義、日本の人権保障、国際化について検証する ・現代の民主主義(ファシズムの反省、多数決原理の課題、民主政治のありかた)の検証と考察 ・世界の主な政治体制の確認と民主政治のシステムについての検証 ・旧憲法との比較、日本国憲法の成立と意義、憲法改正に関する議論について検証考察をおこなう	3 2 2 2	
5		1 2	日本国憲法の基本原理 基本的人権の保障	・法の下での平等、自由権、社会権、新しい人権についての検証、考察 ・憲法第9条を巡る意見、日本の安全保障の変化と今後のあり方を検証考察および検討をおこなう	3 5	提出プリント
		1 1	平和主義 日本の政治機構	・国会と立法、内閣と行政、裁判所と司法についての検証 ・地方自治の権限と課題の確認	4 2 4	定期考查、ノート
6		8	地方自治 現代政治の特質と課題	・議会制民主主義と政党政治、政党政治の課題 ・選挙制度の特徴と課題、低投票率についての考察 ・世論とマスメディアについての考察 ・経済活動の特徴と体制についての検証 ・資本主義経済の発展と変容についての検証と社会主義との比較検討	4 2 2 2	提出プリント 課題レポート
7	第1編第2章 現代日本の経済	8	現代の資本主義経済	・経済主体と経済の循環、生産のしくみについての考察 ・市場経済の機能と限界についての検証 ・国民所得と経済成長 ・金融のしくみと機能についての検証 ・財政のしくみと機能についての検証 ・戦後日本経済の道程をたどる ・バブル崩壊後の日本素材の現状についての検証	2 6 2 2 2 2	定期考查、ノート
8			・現代経済のしくみ		2	課題レポート
9		1 9	日本経済の発展と現状	・公害と環境保全の検証と持続可能社会形成への考察 ・日本の農業と食料問題の検証と考察 ・中小企業の現状と課題の確認と未来への考察 ・情報化の進展と社会の変化についての検証、未来への考察 ・消費者問題についての検証と考察 ・雇用と労働問題についての検証と考察 ・社会保障と福祉制度の特徴と課題についての検証と考察	3 2 2 1 1 1	提出プリント 定期考查、ノート
10		4	福祉社会と日本経済の課題	・課題を一つ選び、レポート作成および発表を行う	1	
		4			4	課題レポート、発表
11	第1編第3章 現代日本の諸課題 第2編第1章 現代の国際政治	3	国際政治のしくみ	・主権国家とは ・国際政治の特徴や国際法の検証 ・国際連合の役割と課題についての検証 ・戦後および冷戦後の国際関係と日本について考察する	1 1 1 3	
			複雑化する国際政治と日本	・地域主義や軍縮と日本の立場について検証考察する ・国際社会における日本の役割を考察する ・貿易と国際収支について ・国際通貨体制や各国の政策協調について	3 3 6	定期考查、ノート
12		9	国民経済と			

1	第2章 現代の国際経済	1 1	国際経済	て学ぶ ・発展途上国の経済について総合的に考 える ・金融に代表される経済のグローバル化 についての考察	5 3 3	課題レポート
2	第3章 国際社会の諸課題	8	世界経 済の現状と 課題	・環境、資源、エネルギー問題についての 検証と考察 ・人口、貧困等の諸課題についての考察	2 2	定期考査、ノート、 課題レポート
3		4		・課題を一つ選び、レポート作成および発 表を行う	2	

計105時間 (50分授業)

7 課題・提出物等

配布プリント、定期考査の際に提出するノート、課題レポート 等

8 担当者からの一言

この学習を通して世の中に興味関心を持ち、有権者としての政治的教養を身につけるとともに、国際経済の知識や社会の一員としての自覚を持ち、主体的に人生を歩む礎としてほしいと思います。
また、激動の現代社会において、自らの意思で平和な世界を求めて、行動できる思考力・判断力を養ってほしいと願います。

教科(科目)	理科（化学基礎）	単位数	3単位	学年(コース)	2学年 選択
使用教科書	第一学習社 『高等学校 新化学基礎』				
副教材等	第一学習社 『新課程版 ネオパレノート化学基礎』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～上越地域唯一の商業を専門とした高等学校として、生徒の多様な進路に対応した教育活動を行います～ ①1年生では基礎学力の充実に努めるとともに、積極的に将来の自分について探求する姿勢を育成します。 ②2年生では商業科目を系統的に学習することを通して、高い専門性を追求します。 ③3年生では学校の教育活動全体を通して、実社会で必要とされるビジネスマナーの習得を目指します。 ④各学年における探究的な学習活動や体験学習、教科横断的な学習により、深い学びを実践していきます。
カリキュラム・ポリシー	～このような生徒を求めています～ ①将来は自分でお店を持つなど、起業に関心がある生徒。 ②事務や販売などの仕事につくことを目指しており、そのための知識を学びたい生徒。 ③生まれ育った地域のために自分に何が出来るか考えている生徒。 ④新しいことに挑戦してみたいという積極性があり、進路希望実現のために努力を惜しまない生徒。 ⑤健康的で規則的な生活習慣をもち、ルールやマナーを守る生徒。

2 学習目標

日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。学んだ事柄が、日常生活や社会を支えている科学技術と結びついていることを理解させる。

3 指導の重点

- ・日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。
- ・観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
- ・物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
自然の事物・現象について基本的な概念や原理・法則を理解している。自然の事物・現象を科学的に探究するための知識と技能を身につけているようにしている。	自然の事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現しようとしている。	自然の事物・現象を積極的に観察し、科学的に捉え、理解しようとする態度を身につけようとしている。

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査 ・実験時の内容理解や操作状況 ・実験レポートの内容 ・提出された問題集や課題の内容 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査 ・実験レポートの内容 ・提出された問題集や課題の内容 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の質疑応答 ・ワークやプリントでの作図や計算問題等への取り組み ・提出された課題の内容 ・グループ討議やレポートの内容 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価基準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	第Ⅰ章 物質の構成	6	『高等学校 新化学基礎』 『新課程版 ネオパルノ ート化学基 礎』	第1節 物質とその構成要素 物質の成分と分離	6	授業時) ・授業中の取り組み (発問・発表・質疑応 答等)
5		8		化合物・単体と構成元素 原子のなりた ち 元素の周期律と周期表	8	・演習問題への取り 組み
6		1		原子の電子配置 元素の周期律と周期表 1 学期中間考査	1	・ワークへの記入・作 図などの作業
7		9		第2節 物質と化学結合 イオン 共有結合 分子の構造と極性	9	〈 実験時 〉 ・実験操作の正確さ ・記録の正確さ ・グループ討議の 様子 ・レポートの内容 ・準備・後片付け
8		6		共有結合 ⑤分子の構造と極性 ⑨金属結合 ⑩金属の利用	6	
9		1		⑨金属結合 ⑩金属の利用 1 学期期末考査	1	
10		12		第1節 物質質量と化学反応式 ①原子量 ②分子量・式量 ③物質質量	12	
11		10		⑦化学変化と化学反応式 ⑧化学反応式と 量的関係	10	
12		1		⑨化学反応式と量的関係(2) ⑩化学反応に おける諸法則	1	
1	第Ⅱ章 物質の変化	12	『高等学校 新化学基礎』 『新課程版 ネオパルノ ート化学基 礎』	2 学期中間考査	12	・提出された課題の 内容 ・定期考査
2		10		第2節 酸・塩基とその反応 ①酸と塩基 ②酸・塩基の強弱と水素イオン濃 度 ③水素イオン指数	10	
3		1		④中和と塩 ⑤中和の量的関係 ⑥中和滴定 ⑦中和滴定と pH の変化	1	
4		12		2 学期期末考査	12	
5		10		第3節 酸化還元反応 ①酸化と還元 ②酸化数と酸化還元反応	10	
6		1		③酸化剤・還元剤と金属のイオン化傾向 ④酸 化還元反応の利用	1	
7		2		学年末考査	2	
8		2		・指示薬を用いた実験	2	
9		2		・演習	2	
10		2		・まとめ	1	

計 105 時間 (50 分授業)

6 課題・提出物等

・授業時に配付される課題プリント ・実験時に配付されるレポート ・問題集

7 担当者からの一言

自然現象を化学的に考察できるよう、日頃から化学的事象に関心を持って学習に臨んでもらいたい。提出物は、確実に提出すること。

教科(科目)	外国語（論理・表現Ⅰ）	単位数	3単位	学年(コース)	2学年 選択
使用教科書	数研出版『BIG DIPPER English Logic and ExpressionⅠ』				
副教材等	数研出版『BIG DIPPER English Logic and ExpressionⅠワークブック』 文英堂『WISH総合英語』、文英堂『WISH ENGLISH GRAMMAR21UNITS』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～上越地域唯一の商業を専門とした高等学校として、生徒の多様な進路に対応した教育活動を行います～ ①1年生では基礎学力の充実に努めるとともに、積極的に将来の自分について探求する姿勢を育成します。 ②2年生では商業科目を系統的に学習することを通して、高い専門性を追求します。 ③3年生では学校の教育活動全体を通して、実社会で必要とされるビジネスマナーの習得を目指します。 ④各学年における探究的な学習活動や体験学習、教科横断的な学習により、深い学びを実践していきます。
カリキュラム・ポリシー	～このような生徒を求めています～ ①将来は自分でお店を持つなど、起業に関心がある生徒。 ②事務や販売などの仕事につくことを目指しており、そのための知識を学びたい生徒。 ③生まれ育った地域のために自分に何が出来ると考えている生徒。 ④新しいことに挑戦してみたいという積極性があり、進路希望実現のために努力を惜しまない生徒。 ⑤健康的で規則的な生活習慣をもち、ルールやマナーを守れる生徒。

2 学習目標

コミュニケーションを図る資質・能力を踏まえ、「話すこと[やり取り]」、「話すこと[発表]」及び「書くこと」ことを中心に、「聞く」、「読む」ことを関連づけながら、発信能力の育成を強化することを目指す。 1. 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。 2. スピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッション、1つの段落を書くことなどを通して、論理の構成や展開を工夫して、話したり書いたりして伝える又は伝え合うことなどができるようになる。
--

3 指導の重点

1. 与えられた話題について、基本的な語句や文を使い簡単な事柄を即興で話す。 2. 日常的・社会的な話題について、基本的な語句や文を使い、読み手や目的に応じて簡単な内容を書く。 3. 発表の仕方や発表のために必要な表現などを学習し、聞いたり読んだり経験したことに基づき、情報や考えなどをまとめ、発表する。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 英文を読み取るために必要となる語彙や表現、文の構造を理解している。 - 目的や場面状況に応じた論理の構成や展開が表現をすることができる。	- 英語の表現を通して、それに対する日本語の表現の本質的な意味などに対する理解を深めようとしている。 - 日常的な話題で、得られた情報を整理しながら自らの考えを形成し、論理的に適切な英語で表現することができる。	- 文化に対する理解を深めようとしている。 - 授業や与えられた課題に懸命に取り組む努力をしている。 - 学習の進め方を、自分で管理しようとしている。

5 評価方法

評価方法	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、 - ペーパーテストやパフォーマンステストの分析 - レポートやワークシート、課題、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 - ペーパーテストやパフォーマンステストの分析 - レポートやワークシート、課題、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 - ペーパーテストやパフォーマンステストの分析 - レポートやワークシート、課題、提出物などの内容の確認 - 振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。
	内容のまとめりとともに、各観点「A:十分満足できる」、「B:おおむね満足できる」、「C:努力を要する」で評価します。 内容のまとめりとともに評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	はじめに① 「だれが」「～する」をはっきりと はじめに② 動詞をうまく使おう はじめに③ 名詞の数などに 気をつけよう School Life School Subjects	12 [聞くこと] [読むこと] [書くこと] [話すこと] (発表・やりとり)	PART1 Lesson1, 2, 3 PART2 Lesson1, 2	・＜主語+動詞…＞の構造を理解して、英語と日本語の作りの違いを学ぶ ・基本的な動詞の意味を理解し、適切に活用する ・英語における数の概念を身につけ、単数形・複数形を適切に用いて表現する ・「勧誘」「提案」についての会話を聞き取る ・「好きな教科・好きでない教科」などの与えられた話題に対して、自分の意見や状況などを正しく伝える ・単元テスト	12	ワークシート (記述の点検) ワークシート (記述の確認) 活動の様子 (行動の確認)
5	My Friends My Family 「～である[ない]」「～ですか[しますか]」「～する[している]」「～した[していた]」などを英語で表現できる Free Time Feeling Well?	12 [聞くこと] [読むこと] [書くこと] [話すこと] (発表・やりとり)	PART1 Lesson4, 5 PART2 Lesson3, 4	・「肯定文・否定文」「疑問文」に注意して、個々の英文の内容を理解し、適切な思考・判断をもってそれに応答する ・適切な場面において、自分の考えが理解されるように、「確認」「訂正」の意味に注意して、相手の発言の意味を理解して対話を行う ・「先生・友人や本などから得た有益なアドバイス」などの話題に対して、自分の経験や考えなどを正しく伝える ・単元テスト	12	ワークシート (記述の点検) ワークシート (記述の確認) 活動の様子 (行動の確認)
中間考査						
6	Pastime My Town 未来に行うことについて、現在・過去における完了・継続・経験の意味を英語で表現できる。 Housework The Internet Is Fun	12 [聞くこと] [読むこと] [書くこと] [話すこと] (発表・やりとり)	PART1 Lesson6, 7 PART2 Lesson5, 6	・will を用いて「予測・自然の成り行き」や「意志」の意味を表現したり、be going to do, be doing を用いて、「前から計画していること」「近い未来の予定」の意味を表現したりする ・「完了・結果」「経験」「状態・動作の継続」の意味に注意して、個々の英文の内容を理解し、適切な思考・判断をもってそれに応答する ・単元テスト	12	ワークシート (記述の点検) ワークシート (記述の確認) 活動の様子 (行動の確認)
7 8	Our Teachers Visiting a Museum Famous People 能力・許可・推量などの意味を英語で表現できる。 催し物や行事・活動などについて、英語で表現できる。 I've lost your book Planning a trip	12 [聞くこと] [読むこと] [書くこと] [話すこと] (発表・やりとり)	PART1 Lesson8～10 PART2 Lesson7, 8	・「可能」「許可」「推量」の意味に注意して、個々の英文の内容を理解し、適切な思考・判断をもってそれに応答する ・「受け身」を使用するのが適切な場面や状況を理解して、コミュニケーションを図ろうとしている ・「個人での旅行とグループでの旅行のどちらがよいか」などの話題に対して、自分の意見やその理由などを正しく伝える ・パフォーマンステスト	12	ワークシート (記述の点検) ワークシート (記述の確認) 発表の様子 (行動の確認)
期末考査						

9	Reading Studying Abroad 読書や感情に関 連する事柄など について、英語で 表現できる。 「～すること」 「～する方法」な どを英語で表現 できる。 Experiences Abroad Exchange Students	12 [聞くこと] [読むこと] [書くこと] [話すこと] (発表・やり とり)	PART1 Lesson11, 12 PART2 Lesson9, 1 0	- 不定詞の「名詞的用法」「形容詞的用法」「疑問詞+ to do」の意味に注意して、個々の英文の内容を理解し、適切な思考・判断をもってそれに応答する - 人の性格や特徴などについて、「程度・結果を述べる」などの表現を含めて、コミュニケーションを図る技能を身につけている - 人の性格や特徴などについて英語で表現できる - 単元テスト	12	ワークシート (記述の点検) ワークシート (記述の確認) 活動の様子 (行動の確認)
10	Advice Hobbies My Vacation 「～するために」 「…に～するよ う頼む」などを英 語で表現できる。 I Want To Be a... Cheer Up Your Friend	12 [聞くこと] [読むこと] [書くこと] [話すこと] (発表・やり とり)	PART1 Lesson13 ～15 PART2 Lesson11, 12	- to 不定詞の副詞的用法や原形不定詞の用法に注意して、個々の英文の内容を理解し、適切な思考・判断をもってそれに応答する 「願望・目的」についての会話を聞き取る - 趣味や休暇での出来事などについて英語で表現できる - 単元テスト	12	ワークシート (記述の点検) ワークシート (記述の確認) 活動の様子 (行動の確認)
中間考査						
11	In a Zoo Our Team 2つのものを比 べて、「同じくら い」「より～」 「2倍の～」など を英語で表現で きる。 Neighbors Farewell Party	11 [聞くこと] [読むこと] [書くこと] [話すこと] (発表・やり とり)	PART1 Lesson16 ～18 PART2 Lesson13	- 動名詞や不定詞の用法に注意して、個々の英文の内容を理解し、適切な思考・判断をもってそれに応答する - 情報・考えを整理して発表する - 同等比較や比較級、最上級、倍数表現でよく用いられる語彙などを習得する - 単元テスト	11	ワークシート (記述の点検) ワークシート (記述の確認) 活動の様子 (行動の確認)
12	Speeches Saving Resources	11 [聞くこと] [読むこと] [書くこと] [話すこと] (発表・やり とり)	PART1 Lesson19 PART2 Lesson14	- 賛成・反対の意見を述べることについての会話を聞き取る - 関係代名詞や関係副詞の用法に注意して、個々の英文の内容を理解し、適切な思考・判断をもってそれに応答する - パフォーマンステスト	11	ワークシート (記述の点検) ワークシート (記述の確認) 発表の様子 (行動の確認)
期末考査						
1	My Wish Social Problems	7 [聞くこと] [読むこと] [書くこと] [話すこと] (発表・やり とり)	PART1 Lesson20 PART2 Lesson15	「意見を尋ねる・述べる」ことについての会話を聞き取る - 社会問題や、プレゼント・行楽などの話題に対して、自分の意見や理由などを正しく伝える - 単元テスト	7	ワークシート(記述 の点検) ワークシート(記述 の確認) 活動の様子 (行動の確認)
2 3	A Birthday Gift	4 [聞くこと] [読むこと] [書くこと] [話すこと] (発表・やり とり)	PART1 Lesson21	- 名詞節を導く that, if (whether) や、副詞節を導く when, because, if を用いて、従節を含む文を表現する - プレゼントを贈る場面などについて、英語で表現できる - パフォーマンステスト	4	ワークシート(記述 の点検) ワークシート(記述 の確認) 発表の様子 (行動の確認)
学年末考査						

7 課題・提出物等

小テスト、パフォーマンステスト、課題作文、授業用ワークシート、ワークブックなど

8 担当者からの一言

基本的な文法や表現を学び、自分の考えや情報などを英語で話したり書いたりする科目です。自分の考えをしっかりと持ち、積極的に英語で書いたり、人前で話したりしていきましょう。

教科(科目)	学校設定科目 商業(簿記技術)	単位数	3単位	学年(コース)	2学年 選択
使用教科書	日本実業出版『この1冊ですべてがわかる会計の基本』				
副教材等	実教出版『最新段階式日商簿記検定問題集2級(商業簿記・工業簿記)』 実教出版『日商簿記検定模擬問題集2級(商業簿記・工業簿記)』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～上越地域唯一の商業を専門とした高等学校として、生徒の多様な進路に対応した教育活動を行います～ ①1年生では基礎学力の充実に努めるとともに、積極的に将来の自分について探求する姿勢を育成します。 ②2年生では商業科目を系統的に学習することを通して、高い専門性を追求します。 ③3年生では学校の教育活動全体を通して、実社会で必要とされるビジネスマナーの習得を目指します。 ④各学年における探究的な学習活動や体験学習、教科横断的な学習により、深い学びを実践していきます。
カリキュラム・ポリシー	～このような生徒を求めています～ ①将来は自分でお店を持つなど、起業に関心がある生徒。 ②事務や販売などの仕事につくことを目指しており、そのための知識を学びたい生徒。 ③生まれ育った地域のために自分に何が出来るか考えている生徒。 ④新しいことに挑戦してみたいという積極性があり、進路希望実現のために努力を惜しまない生徒。 ⑤健康的で規則的な生活習慣をもち、ルールやマナーを守れる生徒。

2 学習目標

商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、会計責任を果たすために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 1年次において必修である「簿記」の学習内容を踏まえ、基礎的・基本的知識と技術を実践的に定着させ、「財務会計」「原価計算」などの指導内容をより実践的なものとする。

(2) ビジネスに携わる者として会計の全体像を的確に捉え、会計責任を果たす力の向上を目指して自ら学び、適正な会計情報の提供と効果的な活用主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

3 指導の重点

1年次に履修する「簿記」の内容を踏まえ生徒に「簿記」の基礎・基本が定着するよう指導する。また、実務における会計業務の全体像を指導することで、同時に履修している「財務会計」と「原価計算」の学習内容に広がり深みをもたらす指導をする。

4 評価の観点の趣旨

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
会計分野に関する基礎・基本的な技術を身に付け、理解を深めるために問題演習に努めている。基本的な知識と実務への応用力を身に付け、ビジネスにおける会計の意義や役割を理解している。	会計に関する諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、会計に携わる者としての判断力と意思決定能力を身につけている。	会計に関する諸課題について関心を持ち、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身につけている。

5 評価方法

評価方法	評価は次の観点から行います。		
	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・提出物の内容 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・授業中の取り組み（発言・発表）の観察 ・提出物の内容 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の取り組み（発言・発表）の観察 ・提出物の内容 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点 「A：十分満足できる」「B：概ね満足できる」「C：努力を要する」で評価します。 内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	第1章 会計とは	3	会計の役割 会計の構造	3	授業の取り組み
5	第2章 財務会計	19	決算書の体系		
6			各種財務諸 貸借対照表、 損益計算書、キャッシュフロー計算書 固定資産、繰延資産、引当金、税金、 社債、本支店会計など	9	中間考査 課題提出
7	第8章 財務分析	10	連結決算の作成方法、安全性分析、収益性分析など	10	
8	第9章 予算管理	2	予算の体系、予算の配賦計算など	2	期末考査
9	第10章 原価計算	23	個別原価計算、部門別計算、工場会計 総合原価計算、標準原価計算など	13 10	
10	第3章 連結決算	6	グループ経営について 資金管理と 資金調達について	6	中間考査
11	第4章 税務会計	6	税金の体系、消費税など	6	
12	第11章 コスト・マネジメント	8	コスト・マネジメントの必要性、変動 費と固定費、損益分岐点分析など	8	課題提出
1	第5章 内部統制	14	会社法、金融商品取引法、法令遵守、 内部牽制など	14	期末考査
2	第7章 企業価値	9	管理会計、キャッシュフローなど	9	授業の取り組み
3	第12章 組織再編	5	M&A、事業譲渡、合併など	5	学年末考査 検定の取り組み 課題提出

計 105 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

- ・日々の授業の問題演習
- ・夏季休業、冬季休業課題

8 担当者からの一言

理解度を深めるため、日々の演習等課題があります。